

## 1. 研究課題・実施機関・研究開発期間・研究開発予算

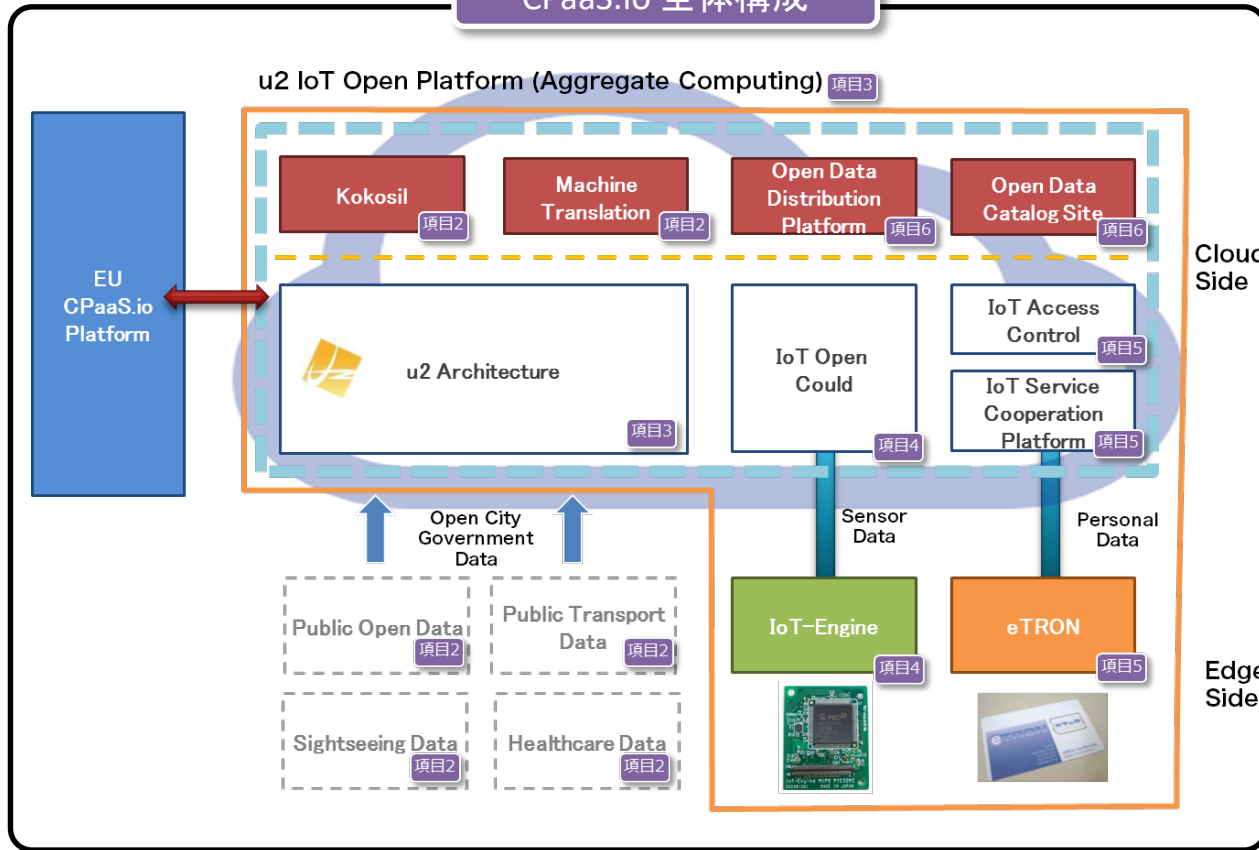
- ◆ 課題名 : 欧州との連携による公共ビッグデータの利活用基盤に関する研究開発
- ◆ 副題 : CPaaS.io:統合化されたオープン・シティ・プラットフォーム・アズ・ア・サービス
- ◆ Acronym : CPaaS.io
- ◆ 実施機関 : (株)横須賀テレコムリサーチパーク、日本マイクロソフト(株)、(株)ACCESS、ユーシーテクノロジー(株)、東京大学(越塚登) Bern University of Applied Sciences、AGT Group (R&D) GmbH、NEC Europe Ltd.、Odin Solutions S.L.、The Things Industries、University of Surrey
- ◆ 研究開発期間 : 平成28年7月～平成30年12月 (30か月)
- ◆ 研究開発予算 : 総額155百万円 (平成28年度47百万円)

## 2. 研究開発の目標

都市が抱える様々な問題をIoTやオープンデータを利用して解決するためのプラットフォームである、CPaaS.io (City Platform as a Service - Integrated and Open: CPaaS.io)を実現する。

## 3. 研究開発の成果

### CPaaS.io 全体構成



### 項目2: ユースケース検討

本研究開発で実施する5つの実証のユースケースを分析し、データ収集、分析、デバイスによる制御、パーソナライズ機能のためのユーザ管理の4機能を共通項として抽出。

### 項目3: アーキテクチャ検討

アーキテクチャ構築のベースとなるu2アーキテクチャならびにFIWAREアーキテクチャを調査した。そのうえで、CPaaS.ioアーキテクチャの第1バージョンを設計。

### 項目4～項目6: 要素技術調査

- 既往のデータ配送の仕組みとしてMyDataとeTRONによるPersonal Data Store (PDS)を調査
- FIWARE、u2アーキテクチャにおけるデータモデルやLinked Dataを構成する技術、Open Government Dataに関する技術やデータのライセンスを調査

#### 4. これまで得られた成果(特許出願や論文発表等)

	国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース 報道	展示会	標準化提案
欧州との連携による公共ビッグデータの利活用基盤に関する研究開発	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	4 ( 4 )	0 ( 0 )	3 ( 3 )	0 ( 0 )

※成果数は累計件数、( )内は当該年度の件数です。

##### (1) TRON Symposiumにて発表

開催日時・場所: 2016年12月15日、東京ミッドタウン

開催概要:

組み込みシステムやオープンデータに関する国際的な技術団体であるトロンフォーラムが主催するTRON Symposiumにて、本研究開発の概要と期間内に実施する5種類の実証実験を紹介し、都市の問題を解決するためにCPaaS.ioプラットフォームが役に立つかを議論した。プラットフォームによりデータが提供できなかった事業者がデータを提供できるようになること、新たなビジネス展開が期待できること、実証で生成・公開されるデータを相互運用できる可能性等から、CPaaS.ioは都市の問題解決に有用であるという認識が広く共有されていることが確認できた。CPaaS.ioプロジェクトは相互接続性が求められるものであり、プロジェクト期間中にあらゆるものと接続することを目指すことが確認された。

##### (2) Resilient City Summit

開催日時・場所: 2016年11月2~4日、富山市

開催概要:

持続可能でレジリエントな都市(Resilient City)を目指す国内外の都市や国際機関等を招き、実務的な取り組みや戦略、課題等について議論・共有を行うことを目的に開催されたResilient City Summitにおいて、本研究開発で実施する実証の1つである、札幌市におけるオープンデータを利用した観光実証を紹介した。

#### 5. 今後の研究開発計画

今年度の研究開発により、CPaaS.ioアーキテクチャの全体的な構成と、それを構成する要素技術を整理できた。次年度は、各要素の細部設計の検討をすすめ、アーキテクチャの設計を具体化させる。